

「ヘイマカト」

白百合学園中学校 二年 関根 理乃

私には毎週楽しみにしている新聞コラムがある。この前読んだ記事には特に興味をひかれる事が書かれていた。「獲得形質は遺伝する」という今までの常識を覆すような事が発表されたのだ。獲得形質とは親の世代が経験や学習によって得た記憶や行動の事だ。それが子に受け継がれ、遺伝するというのだ。体のパーツや病気等、身体に現れる遺伝があるのは勿論知っていたが、獲得形質も遺伝するとは、と驚愕した。確かにそうかもな、と感じる事はあったが、父と不得意な分野が全く正反対だった事を考えてみると、やはり遺伝子はあくまで手助け程度であり、自分次第という事かと多少の落胆は拭えなかった。

「遺伝」といえば、私と姉の踵の部分は丸く飛び出している。母は私達姉妹より、もう少し大きく骨が主張している。祖母も祖母の父も同様だという事が分かっている。我が家ではこれを祖々父の姓から「平馬かかと」と呼んでいる。私が生まれた時、姉はすぐに私の踵を確認し、家族の印を発見して大いに爆笑し、安堵したのだという。特別なものに思えるかもしれないが、「平馬かかと」で得した事は今まで一度も無い。靴選びは慎重を重ね、新しい靴を履き始めたとしても、大量の絆創膏を常備しなくてはならない。予防で沢山貼っていたのに何故か靴擦れが出来てしまった時は、自分の踵が本当に恨めしくなる。

また、母は町で道を聞かれる事が多い。横断歩道を犬の散歩中に待っていたのなら「この人はご近所の人だわ」と思われても不思議ではない。だが、井ノ頭公園の近くや京都の平等院近くでも聞かれた事があるのだ。お人好しに見えたからだろうと家族で笑い合っていたのだが、そのうち姉も度々道を聞かれる様になり、立派な「お人好し」となった。当時はまだ幼かった私は、母と姉の道順の説明についての反省会を他人事の様聞いていたのだが、二〇一八年四月に中学に入学してから私は「お人好し」の仲間入りをしてしまった。道を聞かれる事は勿論、話しかけられる事もある。最近では、銀行前で母を待ちながら本を読んでいた時に、おじいさんに話しかけられ、戸惑いつつ互いの飼った犬の話をした。「何故私が……」と思っても、動揺しては道順の説明を考える時間が減るため、サッと気持ちを切り替え、お

話を伺うのも上手くなってきた。素直に喜べない話である。

この特殊な才能も遺伝なのだろうか。そもそもお人好しなんて遺伝するのかと疑問に思う反面、もっと役に立つものを遺伝したかったとショックを受けた。特殊といえば、我が家の愛犬ローリーの犬種はボーダーコリーなのだが、毛の色は有名な白と黒ではなくレッド&ホワイトという色だ。これも遺伝である事は明らかである。また、私の好きな白米は品種改良を重ね個性と美味しさを作り出した人工の品物である。

他にも身近な遺伝の不思議はある。小学三年生の時に母に買って貰ったクローバーで、四ッ葉のみになる様に遺伝子操作されており、それぞれ葉に特徴的な線が入っている「スイカ」と「メロン」という種だ。どちらも名前の由来となった果物の特徴を表す線が入っていたのだが、今年の春、ふとクローバーの植えてある植木鉢を見てみると、葉に入っているはずの線が薄くなり、模様の無いものまで現れた。世代交代のうちに二つも個性を残せず、葉の枚数だけが生き残ったのだ。

私は品種改良されたお米や大豆製品を食べ、線の薄くなった四ッ葉に水をやり、たまに道を聞かれている。私の体は自分のものの様で、外界と、「遺伝」という私のカの及ばぬ大きな力に静かに動かされている。いつの日か私の子孫が「平馬かかと」で無くなる日が来るかも知れない。その日が来る事への複雑な気持ちでそっと踵を撫でてみる。